

社会問題

数理的  
アプローチソリューション  
創造力

# 生活の見える化ラボ (小西研)

## Life Visible Lab. (LVL)

~Making everyday life visible through data

**Keywords:** ビッグデータ、アンケート、公的統計、計量経済学、データビジュアライゼーション、「いま」を記録する



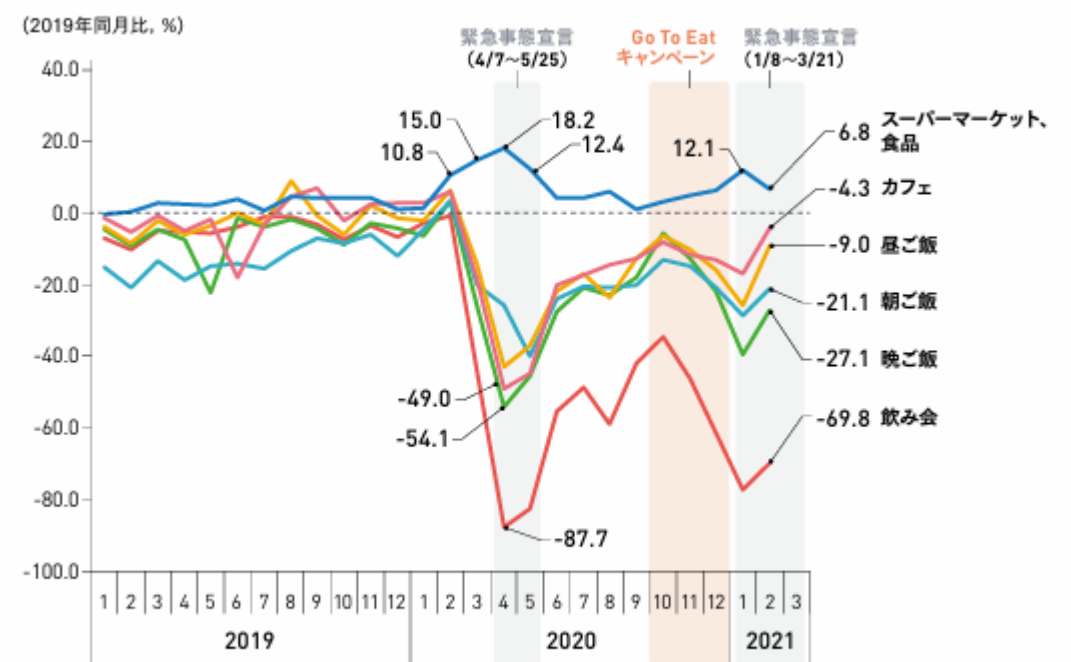
小西 葉子  
Yoko Konishi

**研究室の目標:** ビッグデータと統計学・計量経済学を用い、グラフなどの可視化と実証分析を通じて、いままで見えなかった経済・社会活動を指標化し、EBPM（証拠に基づく政策立案）や社会課題の解決に貢献します。

### 消費ビッグデータの活用:

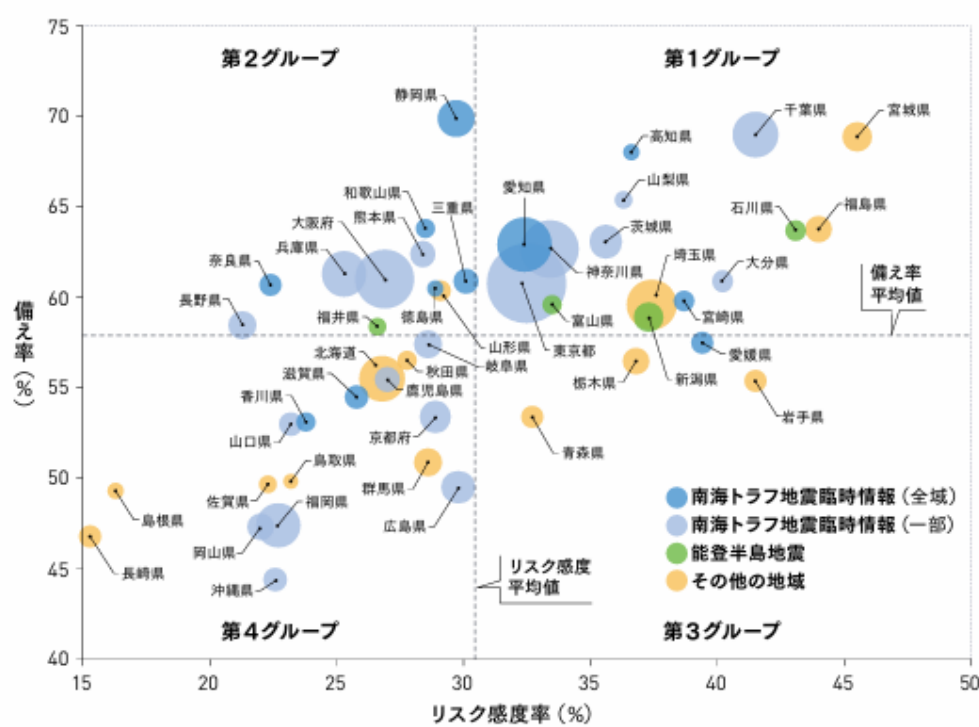
POSデータと家計簿アプリデータを用いて、コロナ禍における「食事」の変化を可視化しました。感染拡大に伴い、外食（飲み会・朝食・昼食・晩ご飯）が大きく減少する一方で、スーパーマーケットなどの消費が増加し、自宅での食事が増えていることが分かります。また、緊急事態宣言やGo To Eatキャンペーンといった政策介入の前後でも、消費行動の変化が確認できます。

図23 POSデータと家計簿アプリデータで食事を可視化



データ: 食品は経済産業省の「METI POS小売販売額指標 [ミクロ]」(インテージ社データ)、飲食サービスは「家計簿アプリZaim」を使用

図56 都道府県(居住地)別の「備え率」と「リスク感受率」の関係



※居住地で震度6以上の地震が短期(5年以内)に発生すると思う人の割合(%)。バブルの大きさは、県間人口  
データ:筆者ら独自の「自然災害への備えと復興に関する調査」、県間人口は「令和2年国勢調査」を使用  
対象者:全国20~79歳男女/サンプルサイズ:n=21,501/調査実施期間:2024年5月

### 自然災害への備えを可視化する:

都道府県(居住地)別に、自然災害に対するリスクの感じ方と実際の備えの関係を可視化しました。横軸は地震リスクの認識、縦軸は防災への備えを示しています。

**アンケート調査**を用いることで、国の公的統計では把握が難しい、「備え」の地域差や行動と意識のギャップを捉えることが可能になります。こうした結果は、防災施策の優先順位や有効な働きかけの方向性を検討するための基礎情報となります。

### ラボ代表からのメッセージ:

本ラボでは、消費行動、観光、自然災害への備え、Well-being、企業の生産性などの社会経済現象を、グラフと実証分析を通じてデータとして記録します。データは社会から借りている貴重な資源です。数字の背後にある人々の生活を想像しながら、誠実に分析する姿勢を大切にしています。人生で、「**永く使える思考と技術**」を身につけてほしいと考えています。

